Special Olympics Nippon Nagasaki
知的障害のある人にスポーツを

第１３号（２０１８年１１月）

かっちぇて

「かっちぇて」とは長崎の方言で「仲間に加えて」の意味です。

特定非営利活動法人　スペシャルオリンピックス日本・長崎

第7回 夏季ナショナルゲーム・愛知大会

競 泳 の 部

9/22(土)～9/24(月・祝)

愛知学院大学AGUスポーツセンター（日進市）

この度、4年に1回開催される、ナショナルゲームに初参加する機会をいただきました。

競泳からは、アスリート9名・コーチ5名が参加しました。

有森裕子大会会長の力強いスピーチから始まった開会式には、ドリームサポーターとしてミス・ユニバース世界大会優勝の森理世さん、フィギュアスケーターの安藤美姫さん・小塚崇彦さん、歌手のサンプラザ中野くん、そしてなんと、サプライズで GLAY の TERU さんも登場しました。

TERU さんは SON の公式応援ソングとして作曲した『YOUR　SONG』を熱唱、熱狂したアスリートで壇上が一杯になり、最後はサンプラザ中野くんが歌う『Runner』でファミリーも含め会場全体が一体化しました。

興奮が冷めやらぬまま、アスリートとコーチは宿舎の愛知青年の家に。女の子は女子会と称し写真加工のアプリを使って楽しみ、男の子は仲良くなりすぎて、最後には抱き合って、夜遅く眠りについたそうです。

名古屋駅からは随分離れた日進市の競泳会場は立派なプールでしたが、観客席が狭くガラス張りのため、応援で大声を張り上げてもアスリートには全く届かず、ちょっと残念でした。その分、コーチやボランティアの方々がサポート、応援して下さり、アスリートも頑張れたと思います。

大会2日目には安藤美姫さんと小塚崇彦さんが応援に現れ、タイミング良く、表彰式で長崎のアスリート1名にメダルを掛けていただき、一緒に写真撮影もできました。（一生の想い出ですね…羨ましいです）

今大会のスローガンは、『超える歓び』でした。それぞれに描く未来に向けて目の前にある目標や課題を「超え」そこから得られるであろう「歓び」を手にしていただくことを願う…です。

それぞれの目標を超える大会結果だったかどうかはわかりませんが、終わった後のみんなの笑顔からは、間違いなく歓びは手にできたようです。

今回、親も8名応援に行き、親睦会で名古屋名物（手羽先・味噌カツ・味噌煮込みうどん）を満喫し、ファミリーの結束も強くなった 3 日間でした。

コーチのみなさまには、本当にお世話になりました。ケガや迷子になることもなく無時帰宅できましたことを、感謝申し上げます。

（東長崎プール・ファミリー／賀村　市子）

ボウリングの部

名古屋グランドボウル（名古屋市）

ボウリングからは、コーチ 2 名、アスリート 2 名での出場でした。

初日には、日本ガイシホールで開会式があり、次の日から１日目は予選 3 ゲーム、二日目に決勝 3 ゲームが行われました。

会場からは車で 50 分も離れた自然の家が宿舎でしたが、朝を迎えると窓からきれいな知多半島の海が見えたそうで、写真も撮って楽しんでいました。

何もかもが初めてで不安なこともあったようで、アスリートに初参加の感想を聞いてみたら、競技は緊張もしたけれど、他県のアスリートやボランティアの方々といろいろ話せたことが楽しかったそうです。

私たち家族も応援に行けて、充実した楽しい時間を過ごせました。

コーチや事務局のみなさまのご支援のおかげで、貴重な経験ができ、アスリートも自信につながったと思います。ありがとうございました。

（長崎ボウリング・夜・ファミリー／丸山　ひろ子）

バドミントンの部

刈谷市総合運動公園　ウィングアリーナ刈谷　（刈谷市）

バドミントンは、佐世保から山口能隆さんが参加いたしました。

多数のアスリート、コーチ、ボランティアの方々がいて、バドミントンだけでも15県が参加されており、すごく大規模な大会でした。

9 月 22 日が開会式、9 月 23 日～24 日が競技となり、日ごろの練習の成果を発揮して、とても見ごたえのあるゲームを繰り広げてくれました。

23 日の午後からは、ボランティアの方たちとユニファイドでダブルスを楽しみました。

非常にレベルが高くて、山口さんも楽しそうにプレーされていました。

ボランティアの方も3日間専属で、優しく親身にサポートをしていただきました。

←山口さんの鋭いスマッシュが
決まってましたよ！

本部よりアスリート用に名刺も配られて、選手同士での名刺交換も行いました。

今回、アスリート、コーチともに非常にいい経験をさせていただきました。

最後にご声援をいただきましたみなさま、本当にありがとうございました！

（佐世保バドミントン・コーチ／黒﨑　潤）

テニスの部

名古屋市東山公園テニスセンター（名古屋市）

テニス競技には個人技能競技とシングルスとの2種目がありますが、まだ、シングルスをするまでのレベルに到っていないアスリート用に個人技能競技が準備されています。

長崎からは個人技能競技に、冨永武志君が参加しましたが、日頃、練習で使っていない、やや大きめの柔らかいスポンジボールが使われたため、スイングなど力の入れ具合が大変だったようです。

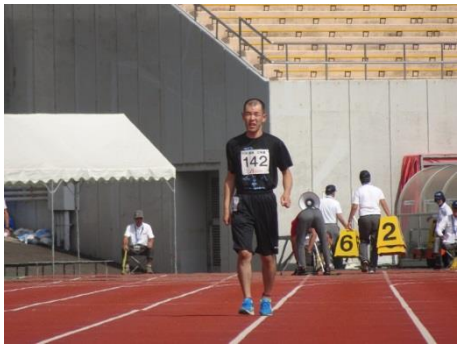
各地区からは10名のアスリートが個人技能競技に参加しましたが、冨永君はディビジョニングで1位を獲得しました。

来年の長崎でのブロック大会のために、長崎市テニス協会からコーチとして宮崎さんに参加していただきました。改めてテニス協会の方々へ感謝申し上げます。（テニスコーチ／松尾　忠信）

陸上競技の部

パロマ瑞穂スタジアム（名古屋市）

初めての場所や行動が苦手な自閉症の息子。今回のナショナルゲームで3日間団体行動ができるかという不安もありましたが、貴重な体験をさせたいという思いが大きく、参加させてもらう事を決めました。出発の長崎駅から親子別行動でしたが、乗り物が好きな息子は、落ち着いて皆と行動できていてまずは一安心！午後の開会式でも、聖火やアトラクションに体を動かし楽しんでいる姿も見られ、親も素晴らしい開会式を堪能する事ができました。



陸上競技は、両日共晴天の中、予選・決勝が行われました。100m走の予選では息子は全く立ち止まる事なくゴールでき、ほっとしましたが、決勝では数メートル走った後、歩き出してしまいました。

応援席から「徹、頑張れ。走るよ！！」と声を出すと、周りにいた他県のファミリーからも、「頑張れ！頑張れ！」と沢山の声援を受けながら、ゴールすると拍手がわいて、とても感動しました。

更に、表彰台で金メダルをかけて頂いた事は、これまでの息子の人生で最高の良い思い出になりました。

今回お世話になったコーチ、一緒に参加したアスリート、ファミリーの皆さん、スタッフの方、大会のボランティアの方々にも感謝の気持ちでいっぱいです。親が心配するよりも、親離れができていた息子の成長した姿も見る事ができました。このような大きな大会に参加できる機会を与えて頂き、本当にありがとうございました。

（長崎・陸上・ファミリー／江林　ヨシ子）

馬術競技の部

学校法人同朋学園 大治馬場（大治町）

馬術は前回の福岡大会ではエキシビションだったため、今大会で初めての公式競技となりました。この記念すべき大会に、茨城、埼玉、神奈川、山梨、三重、兵庫、岡山、福岡、長崎より計１４名のアスリートが参加しました。この４年間で着実に馬術プログラムの実施地域およびアスリートが増えていることはとても喜ばしいことです。

23日 馬術競技の開始式にはスペシャルオリンピックス日本の理事長である有森裕子さんが応援にかけつけてくださいました。

初日のディビジョニング、アスリートたちは初めての場所で初めての馬に騎乗します。限られた練習時間の中でどれだけ自分の乗る馬の特徴を知り、的確な指示を出して乗りこなすことができるか、大きなチャレンジです。

馬術はオリンピックや世界選手権でも男女の区別のない珍しい競技です。

スペシャルオリンピックス馬術のルールブックにも「全ての騎手は能力に応じて競技に参加する。馬術に参加するアスリートは性別や年齢によって区別されない。全ての騎手は能力に応じて競技に参加する。」と書かれています。

長崎のアスリート、松尾悠さんのディビジョンクラスはAで常歩、速歩、駈歩、三種の歩法が求められる競技難易度の高いクラスで、男女混合になりました。アスリートはもちろん、馬にとっても馴れない経験、人馬ともに緊張と戸惑いの中、初日を終えました。

二日目の決勝は馬場馬術競技、定められたサイズの馬場で行う規定の演技を審査され点数を競い合います。運動の正確性、馬を活発に動かすこと、馬の従順性、騎乗者の姿勢などが求められます。アスリートたちは人馬一体を目指して精一杯頑張り、松尾さんはこの種目で銅メダルを獲得しました。

公式競技終了後はユニファイドスポーツ、「チームリレー」を行いました。

今回の馬術競技は地元、同朋高校の馬術部と愛知県馬術連盟の協力を得て、同朋高校馬術部の馬場にて実施されました。

競技運営のお手伝いをして下さった同朋高校馬術部の高校生とアスリートがペアでチームを組み馬に乗ってリレー、双方にとって新鮮で大いに盛り上がったようです。馬は多くの人を夢中にさせ、人を繋げてくれることを改めて実感しました。馬術競技のアスリートは人数が少ないため、ナショナルゲーム期間中、他県のアスリートやコーチが一つの大きなチームのような一体感を持つことができました。地域を超えて応援し、健闘を讃え合うことができ、全国に馬術仲間ができたことはアスリート、コーチにとって大きな収穫です。

スポーツを通して自己表現、仲間づくり、社会参加というスペシャルオリンピックスの意義の詰まったナショナルゲームになりました。この素晴らしい機会に参加することを可能にして下さった皆さまのご支援に心より感謝いたします。また次の機会に向け、日常の練習を積み重ねていきます。

（馬術・ヘッドコーチ／中田 正子）

第 13 回　長崎地区大会

競泳の部　　6/10（日）長崎東公園コミュニティプール

今年は来年の九州大会の練習もかねて、初めての会場となりましたが、役員・ボランティア・ファミリーのみなさんの協力のおかげで楽しい1日を過ごすことができました。

アスリートのみなさんも、本番では練習以上の泳ぎができて嬉しそうでした。

↑スタート前の緊張の時間

↑練習のおかげで上手に
泳げるようになりました

帰る時まではハイテンションだったアスリート達、家に帰ると爆睡の世界に入っていきました…。（東プール・ファミリー／堂尾　恵子）

ボウリング競技の部　　7/8（日）長崎ラッキーボウル

男子36名・女子10名が参加しました。アスリート代表・加藤さん（夜の部）、川越さん（昼の部）、坂本さん（佐世保）の選手宣誓のあと、競技開始。

アスリートのみなさん一人ひとり、日ごろの力を発揮しようと頑張っていました。

何より、どのアスリートも楽しくプレーすることが出来たと思います。

表彰式では、頑張ったアスリートのみなさん、嬉しそうにメダルを受け取っていました。（長崎ラッキー夜・ファミリー／岩岡　冨美子）

長崎のボウリング・昼の部

いつも新人アスリートを熱心に指導いただいている

新コーチ

三浦　武（みうら たけし）　コーチ

趣　味

健康第一なので、その為に現在はボウリング一筋でがんばっています。

SOに関わってみて

いつも一生懸命な皆さんのコーチをしながら、私も一緒にがんばろうと思えて、それがとても嬉しいです。

アスリートへのメッセージ

みんなの頑張る姿にいつも感心しています。
練習をもっと積み重ねて上手になってください。
子どもたちを支えているお母さん方にも感謝しています。

新アスリート

新アスリートのみなさんは、ほとんどが附属特別支援学校に通う中高生です。火曜日の下校後、ラッキーボウルまでの道のりを集団で移動するのも、少しずつ慣れてきました。

アスリートへの想い

高等部を卒業するアスリートたち。その後、「ボウリング昼の部が無くなるかも」と一時心配でした。

「何とかならんやろうかね」と思っていた矢先、中高生が、ひとり、またひとりと入ってきて、ホッとしたものです。

4月、新たなスタートになり、アスリートは14名になりました。

常日頃思うこと、出来ることを、コーチとファミリーが協力しあって、がんばらんばね。

アスリートが楽しんでボウリングすることが何より一番じゃなかろうかね、と思っています。

（長崎ボウリング・昼・ファミリー／吉本　和代）

アスリートが通う！職場を紹介します

時津町手をつなぐ育成会
障害福祉サービス多機能型事業所　エリア21　～時津町～

　水泳・ボウリングと、アスリートが多く通う時津町の「エリア21」。娘と初めて見学に行ったのは中学2年の頃でした。

　当時では珍しい福祉施設の食事処ということで、定食のようなメニューと思っていたら、「さきの膳」という看板メニューを中心に、会席までいただけると知り驚きました。

　帰りの車内で娘に「今日のお店でお仕事したい？」と聞くと迷わず「うん」。それから職場体験実習も毎回こちらを希望して念願がかない、利用5年目になります。

　レストランの他にもお弁当配達、手作り雑貨の委託販売ギャラリー、箱折、三菱見学者用の紙帽子作成、刺し子布巾などの自主製品、農園、公園等の植栽管理など、様々な作業があります。

　ふだんの娘の作業は箱作り、紙帽子、お弁当の集配などで、月 1～2 回のレストラン当番を楽しみにしています。

　発音が悪く家族でも聞き取ることが困難で、通じないことが恥ずかしいと思うのか、自然と言葉を発さなくなった娘は、人好きでもありコミュニケーションも好きなのに、自分からは関わりを持てず寂しい思いをしていました。

　だからこそ施設以外の地域の方と接点のあるレストランは、晴れ晴れとした目立つことが大好きで、チャンスがあれば参加してきた娘にとって、卒業後の毎日を楽しく過ごせる、とても魅力的な職場だと思っています。

　私も当番の日にはできる限りランチに行って、仕事の様子を見るのを楽しみにしています。この当番で上手になったのがテーブル拭きでした。パン屑などをキレイに包んでふき取ることなどを覚えていました。

　他のアスリートも自分にあった作業分野で、スキルをあげています。これからも好きな作業を続けながら、充実した日々を過ごして欲しいと思っています。

　みなさんも、ぜひ、レストランやギャラリーへ遊びに来て下さい。

（なめしプール・ファミリー／末吉　未僖代）

事務局便り

１　２０１８年夏季ナショナルゲーム・愛知へ参加しました。

９月２２日(土)～２４日(月)にわたり、名古屋市を中心に第７回大会が開催され、長崎からの参加は次のとおりでした。

	競 泳	陸上競技	ボウリング	バドミントン	テニス	馬 術	合 計
アスリート	9	8	2	1	1	1	２２
コーチ	5	5	2	1	2	2	１７

これに加えファミリー２３名が応援として同行しました。

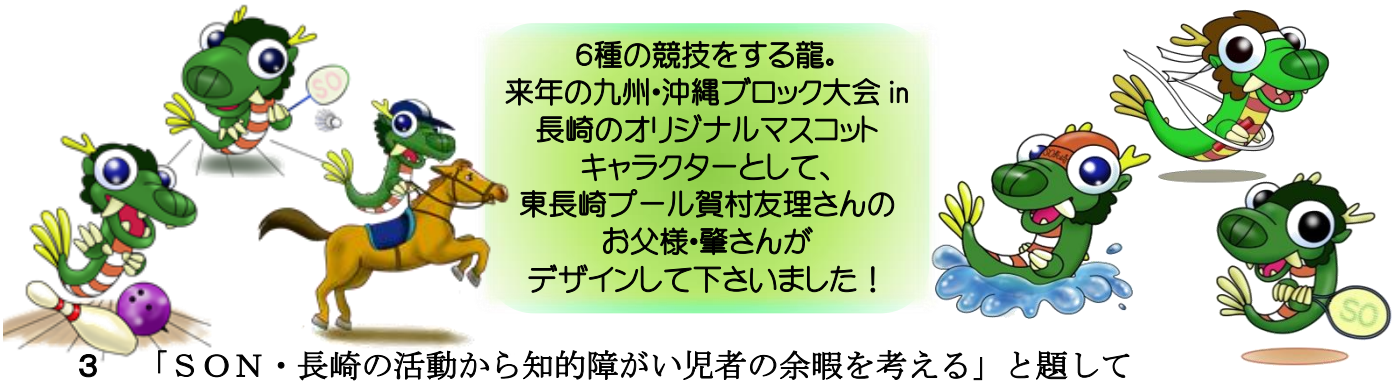
大会規模としては、アスリート約１，０００名、その他コーチ、役員、ボランテイアを含めると合計約１６、０００人を上回る大会でした。

２　２０１９年九州・沖縄ブロック大会 in 長崎実行委員会を立ち上げました。

来年１１月９日(土)、１０日(日)に長崎で開催する第７回同上ブロック大会に向けて実行委員会を立ち上げました。

実施競技は競泳、陸上、テニスの３競技です。これに加え第１日目の開会式に引き続き交流会として瑞宝太鼓、龍踊り、変面、ハンドベルを披露することにしています。

競技に参加しないアスリート、コーチ、ファミリーも開会式、交流会には是非参加してください。



３　「ＳＯＮ・長崎の活動から知的障がい児者の余暇を考える」と題して佐世保市で報告会がありました。

先日、ＳＯＮ・長崎のファミリー、コーチ、アスリートを対象に佐世保の松本コーチ（陸上、競泳）によりアンケートがとられましたが、９月１０日、その集約結果について佐世保市職員を含む民生会の人たち約４０名を対象に報告会が開かれました。

ＳＯＮ・長崎でもプログラム運営委員を中心にコーチ、ボランティア、ファミリーに対して報告会を予定していますので皆さまの参加をお願いします。

４　ＳＯＮ・長崎支援自販機を、長崎地域電力㈱様のご支援により設置していただきました。

これにより支援自販機の設置台数は９台となりました。支援企業の皆さまには感謝申し上げます。

５　「かっちぇて」１３号の編集担当は、ボウリング(夜)、ボウリング（昼)、水泳（なめしプール)、水泳（東長崎プール)、馬術（ゆうゆう牧場）の各プログラムでした。

今号はナショナルゲームの報告もあり、陸上（長崎)、テニス（長崎）も特別に寄稿しています。

次号の担当は、市民プール･大村プール･長崎陸上･テニス･長崎バドミントンになります。

特定非営利活動法人　スペシャルオリンピックス日本・長崎
理事長　　植松　俊徳
〒850－0027　長崎市桶屋町５６　　電話/ファックス（095）823－3575
メール　son_nagasaki@son.or.jp　　ホームページ　http://www.son-nagasaki.jp/